

学びの音

清明小学校 校長室だより

令和7年4月30日

赤松小三郎誕生の地

先日、校長室へ掃除に来てくれた6年生と話をする機会がありました。お家が「木町」あることや通学路の話をする中で、「赤松小三郎の…」と語ってくれました。校長先生も、思わず「そうそう、道路に面して碑のようなものがあるよね」と。さらに「うんうん」と、嬉しそうに話をしてくれました。

皆さんは「赤松小三郎」という人を知っていますか？

赤松小三郎は、江戸時代の終わりころ今から約200年程前に活躍した人物で、江戸時代においてすでに普通選挙による議会政治を提唱し、議会制民主主義に基づいて平和的に日本をつくる構想を示した人物です。



赤松は1831年、上田の地に上田藩芦田家の次男として生まれました。幼いころから学ぶことが大好きで、特に和算に夢中になっていました。18歳で江戸に出た赤松は、和算に加え、西洋の学問、天文学、暦学など多くのことに熱中していきました。さらにオランダやイギリスの教師から最先端の学問や語学を学びました。当時日本は江戸幕府軍と薩摩長州軍といった、同じ国の中で力と力で争うような状況になっていました。

このような状況の中で赤松は、日本国内でもめている場合ではない。「『上下二院制議会』を設けること」、「人材教育の場を設けること」、「人民の平等を考えること」等、日本を平和で近代的な国にしていかなければならないと考え、江戸幕府軍と薩摩長州軍の間に立って活動していました。

1867年、志半ばにしてこの世を去った赤松は、その生涯のギリギリまで争いのない平和な国造りのことを考えていたと言われています。

先ほどの碑に加え、近くには、赤松小三郎生誕の地として、大きな解説看板があり、そこには赤松の写真や生涯について書かれていました。



上田城址公園内には、赤松小三郎の大きな石碑や記念館があります。今でも多くの人によって、大切に語り継がれています。

さて、これは上田城址公園内にある山極勝三郎の石像、さらには学区内にある山極勝三郎生誕の地に建てられている解説の看板です。私たち清明小学校の学区からは、赤松小三郎、さらには山極勝三郎といった、日本を代表する歴史的人物が誕生しています。



私たちの故郷には、歴史的人物に加え、伝統文化、産業、商業に係る数多くの「すごい」や「不思議」「おもしろそう」が沢山あります。清明小学校では、地域に出て探究していく学びを大切にしています。どうぞ皆さん教室や学校から外に出て、思う存分に探究してってください。